



JSQC ニュース

No.312

発行 社団法人 日本品質管理学会

東京都杉並区高円寺南1-2-1 (財)日本科学技術連盟東高円寺ビル内

電話.03 (5378) 1506 FAX.03 (5378) 1507

ホームページ:www.jsqc.org/

CONTENTS

- 1-トピックス ANQベトナム大会報告と今後のアジア展開
- 2-私の提言 市場確保のためのグローバルなTQM活動の強化
- 2-ルポルタージュ 第355回事業所見学会ルポ
- 3-桜井正光氏デミング賞本賞を受賞/7月入会者紹介/デミング賞ほか
- 4-行事案内/各賞表彰/第41年度役員体制役割分担

ANQベトナム大会報告と今後のアジア展開

国際委員会委員長 鈴木 知道

ANQベトナム大会報告

ANQ (Asian Network for Quality: アジア品質ネットワーク) として第9回目となる、ANQ Congress Ho Chi Minh City 2011が2011年9月27日(火)～30日(金)にベトナムのホーチミン市で行われた。プログラムが発表されたのが大会直前になるなど、事前の大会準備状況に関して懸念が持たれていたが、無事に大会が開催された。参加者は昨年のインド大会よりは少なかったものの、海外からは約220名を超え、全体では400名を超えた。

初日の27日(火)にはWelcome Receptionが行われた。広い会場に多くの参加者が集まり旧交を温めた。翌28日(水)には開会式が行われた。主催者からの歓迎の辞などに引き続き、JSQC鈴木和幸会長から日本の震災へのお見舞いに対するお礼を含む挨拶が行われた。そして昨年に続き第2回目となるIKA (Ishikawa-Kano Award) の授賞式が行われた。本年は中国の品質管理に長年貢献したLiu Yuan Zhang博士とSiam Cement Group会長のタイのMr. Kan Trakulhoon氏の2名が受賞した。そして3件の基調講演が行われた。

引き続いて研究発表会が行われた。97件のオーラル発表、60件のポスター発表の計157件の発表が行われた。JSQCからは延べ39件の発表があった。狩野紀昭元会長による基調講演、飯塚悦功元会長による特別セッション、ARE-QP受賞者の金子憲治氏による招

待講演なども行われた。ポスターセッションの質向上がANQ大会の一つの課題であったが、今回はポスター発表賞が創設され、そして発表形式もANQ Congress委員会の安藤之裕委員長の運営で、多くの聴衆を得た。今後是非継続を期待したい。

29日(木)午後には閉会式があり、閉会式においても3件の基調講演が行われた。今回初めて創設されたARE-QP (ANQ Recognition for Excellence in Quality Practice) の表彰も行われた。この賞は優れた品質管理の実践に対して贈られる賞で、ANQ Award Committeeの山田秀委員長の主導で創設されたものである。実行委員長のVQAHのNhon氏の大会報告、そして最後は来年7月31日(火)～8月3日(金)に香港で行われる大会の予告をもって閉会となった。

夜のFarewell Banquetでは恒例の各組織からの出し物などを参加者全員で楽しんだ。30日(金)には工場見学会が開催され、参加者はホーチミン工業大学、繊維会社のVICOTEX社、陶器のMinh Long Ceramic社の3つのコースから選択し、貴重な体験を得た。

大会を通して、JSQCからの参加者は、不測の事態に備えて、若手研究者を中心に、初日の受付の補助を含めてプログラムが正常にこなされていくかを影からサポートした。空いたスロットにはスタンバイ発表者を送り込み、座長がいなければまずは進行し代役をあてる、など、多大な貢献を行った。

ANQの最近の動向と今後のアジア展開

ANQは年に2回の理事会を各2日間の日程で開催しており、ANQ大会の開催やその他のANQ運営に関する議題を議論している。最近の重要課題は大きく二つであり、一つは各種品質賞の創設であり大会報告で紹介した。もう一つはアジア品質管理検定 (ANQ-CEC) である。

アジア品質管理検定 (ANQ-CEC) は、数年前からANQの理事会で議論されている議題であり、最近その実施が急激に現実味を帯びてきた。担当しているのはANQ-CEC (Certification and Examination Committee) であり、委員長はSQI (シンガポール) のLiang氏でJSQCからは、飯塚悦功氏と鈴木知道が参加している。

委員長のLiang氏は検定実施に非常に前向きであり、前回のANQ理事会時から、理事会に先立ち前日に追加でANQ-CEC会議を行っている。今回は検定の言語、出題内容や形式、そして検定料などの具体的な運営面などを多角的に議論した。

日本の国内では品質管理検定が定着し、受験者数も1回あたり約4万人と認知度も向上している。ANQ理事会でも日本の品質管理検定の成功は把握されており、協力が期待されている。JSQCとして、積極的に支援するかも含めて、ANQ-CECに対してどのように対応していくのか岐路に立っている。

● 私の提言 ●

市場確保のためのグローバルなTQM活動の強化

アイシン精機株式会社 伊藤 要蔵



2011年度の品質管理分野で特筆すべき事実として、TQM活動を実践し大きな成果をあげている企業に授与される日本品質管理賞ならびにデミング賞実施賞の受賞会社に日本企業が無く、全て海外企業であるということが挙げられる。今年度は日本品質管理賞をインドの企業が1社受賞し、デミング賞はインド、タイ、台湾の企業がそれぞれ1社、合計3社が受賞した。

最近、日本の製造業の空洞化が叫ばれているが、デミング賞受賞企業の国内外比率を見ると1990年代は日本企業が42社中40社（95%）と圧倒的に多か

った。しかし、2001年以降は海外企業が41社中34社83%とその比率は逆転し大きく様変わりしている。

日本で発展し、日本の製造業を強くしてきたTQM活動を海外企業が導入し、グローバルにTQM活動が普及したことは、世界中の人々の生活を豊かにしているという観点では喜ばしいと言える。しかし、日本の経済収支の悪化や製造業の空洞化による雇用減少などという点で言えば、海外企業のTQM活動の隆盛は、日本のTQM活動の進め方を考える一つの契機ととらえることができる。

私は、企業で働く者にとってのTQM活動とは「顧客志向・継続的改善・全員参加」というTQMの考え方をベースに、企業体質を改善・改革し、

自社の経営目標を達成するための全社的な活動であると思っている。

日本をはじめとする欧米諸国などの先進国は成熟社会になり、自動車や家電商品などの需要増加が望めない一方、BRICs諸国やタイ、インドネシアを代表とするアセアン諸国は価値ある商品が売れる市場として急成長している。こうした世界の成長市場の変化に対応し、海外法人を生産機能として活用するだけでなく、成長市場の獲得に貢献できる海外法人に改革する必要があると思う。そのためには、現地特有の消費者ニーズの把握、現地に合わせた仕様設定、そして現地での製品設計、生産準備、調達、生産、販売、さらにそれを実現するための人材育成など、市場獲得のための全ての機能強化をねらったTQM活動の実践強化が必要である。

こうした本社と海外法人が連携したグローバルなTQM活動により、海外企業を圧倒する「品質経営立国日本」の復活を提案したい。

第355回 事業所見学会 レポート

「日産追浜工場」

第355回事業所見学会は、2011年8月31日、神奈川県横須賀市の日産自動車(株)追浜工場で実施された。自動車工場での開催で、参加希望者が多く定員一杯の39名が参加した。

当工場は日産自動車(株)の主力工場で、わが国初の本格的乗用車工場として1961年創業を開始。1970年には業界初の溶接ロボットを導入し、多車種同時生産が可能な「混流ライン」をいち早く採用し、世界でも屈指の自動化が進んだ乗用車組み立て工場として発展を続け、従業員3300人、年間生産台数43万台を確保されている。

見学会当日は、品質保証部第二品質保証課課長 高橋一弘様、工場QC推進事務局竹重実様にご案内いただき、一般見学コースにはない溶接ロボット工程を含む生産ライ

ンの最前線をつぶさに見学する事が出来た。

当工場では、ニッサンの環境理念である「人とクルマと自然の共成」に基づいた生産活動が実施され、工場内の多くでは環境に配慮した取り組みを見ることが出来た。現在日産が戦略車と位置づけている電気自動車「リーフ」が他の車種と同時に、混流生産ラインにより生産されている現場と、精密に設計された溶接ロボット工程での高度な作業とサプライヤーと一体となった「同期生産」方式での生産管理現場に接し、同社の生産技術の高さを改めて確認することが出来、参加者の関心を集めた。

見学会後の質疑では、当工場で実施の品質検討会(QRQC)、QCサークル活動の現状、生産現場での品質精度確保の現状、組み立て現場でのミスへの対応方法、電気自動車の生産に関する課題等、品質確保に係わる専門的質問が相次ぎ、充実した質疑が実施された。見学会では常に「人にやさしい徹底した車作り」の最前線に接することが出来、大変楽しく、有意義な一日であった。

(MSA審査員/事業委員 池田 晃三)

桜井正光・元本学会会長 今年度デミング賞本賞を受賞

第35年度本学会会長の桜井正光氏が本年度のデミング賞本賞を受賞さ



れました。

同氏は、㈱リコーの社長の後に現在は会長職にあります。経済界におきましても日本を代表する経営者であり、経済同友会代表幹事ほか、多くの公職を歴任されてきています。

同氏は、日本の国際競争力の強化には「日本ブランドの再構築」が必須であるとの強い認識に立られて経済活動を広く推し進めてこられました。

本学会会長就任時には、この実現にむけて、当学会の果たす役割は大きく、これに寄与するには連続性のある活動が必要との観点から、中期

3カ年計画に基づく運営をスタートし現在につながっています。「Qの確保」「Qの展開」「Qの創造」「共通」の4本柱による諸活動によって「日本ブランドの再構築」に一層寄与することが期待されます。



当学会としても、同氏が栄えあるデミング賞本賞を受賞されたことは光栄なことであります。誠におめでとうございました。

2011年7月の入会者紹介

2011年7月8日の理事会において、下記の通り正会員19名、準会員2名

の入会が承認されました。

(正会員19名) ○木場田 茂樹(三菱自動車工業) ○山路 龍一郎(三重県環境保全事業団) ○山村 恵子(宇部

興産中央病院) ○佐藤 浩(帝人ファーマ) ○永嶋 徹(住友化学) ○熊崎 恵亮(蘇西厚生会 松波総合病院) ○香西 瑞穂(医誠会 城東中央病院) ○水野 孝(JUKI) ○佐藤 英明(日産自動車) ○小林 俊仁(愛知製鋼) ○山口 幹夫(電気化学工業) ○斉藤 律子(九州大学) ○小西 啓重(日野自動車) ○水谷 泰賜・今中 武(パナソニック) ○小野寺 勉(日本規格協会) ○大石 修二(電気通信大学) ○中西 清司・藤木 覚(NEC フィールディング)

(準会員2名) ○松岡 賢(東京大学) ○植木 大地(慶應義塾大学)

デミング賞委員会(委員長 米倉 弘昌)において、2011年度の日本品質管理賞、デミング賞各賞、日経品質管理文献賞の受賞者が決定し、授賞式は11月9日経団連会館にて執り行われました。

1. デミング賞本賞

桜井 正光 氏 株式会社リコー 取締役 会長執行役員

2. デミング賞実施賞

Sanden Vikas (India) Limited (インド)
The CPAC Roof Tile Company Limited (タイ)
Unimicron Technology Corporation (台湾)

3. 日経品質管理文献賞(文献名五十音順)

「RとRコマンダーではじめる実験計画法」
「フリーソフトウェアRによる統計的品質管理入門第2版」
「RとRコマンダーではじめる多変量解析」
荒木 孝治 編著

正会員：2453名

準会員：93名

賛助会員：153社184口

公共会員：23口

行事案内

●第2回 科学技術教育フォーラム

テーマ：科学技術立国を支える問題解決教育

日時：2011年12月27日(火)9:45～17:00

会場：成城大学 3号館 003教室

プログラム：

第1部 産官学よりの問題解決教育への期待

(1)世界の変化と日本の課題
坂根正弘 (JSQC会長)

(2)これからの社会で求められる人材
北城恪太郎 (日本IBM)

(3)学校教育の新展開と問題解決教育
常盤豊 (文部科学省)

(4)なぜ、いま Total Quality Education
なのかー産学官が連携する教育支援システムの必要性ー
鈴木和幸 (前会長)

第2部 新「学習指導要領」にそった
実践事例並びに教材紹介

(5)海外 (英国) にみる問題解決教育
西村圭一 (東京学芸大学)

(6)問題解決を重視した統計グラフの
作成指導
高橋広明 (東京学芸大学附属国

際中等教育学校)

(7)データサイエンス (理学) とデータ
エンジニアリング (工学) の模擬体
験ー総合科学としての統計的方法の
体験型学習ー

高橋武則 (慶應義塾大学)

第3部 パネルディスカッション

須江雅弘 (総務省)

竹村彰通 (東京大学) 他

司会：椿 広計 (応用統計学会)

参加費：無料

詳細：ホームページをご覧ください。
[http://www.jsqc.org/q/news/
events-list.html](http://www.jsqc.org/q/news/events-list.html)

申込方法：申込みフォームからお申し込
みください。

[http://www2.s.cs.yamanashi.
ac.jp/~nabe/q/news/2011/12/27/
order64/order.html](http://www2.s.cs.yamanashi.ac.jp/~nabe/q/news/2011/12/27/order64/order.html)

行事申込先

JSQCホームページ：www.jsqc.org/

本部：TEL 03-5378-1506

FAX 03-5378-1507

E-mail：apply@jsqc.org

各賞表彰

第41回通常総会において、第40年度研究奨励賞2件、品質技術賞1件、品質管理推進功労賞4氏、ならびに新設されたActivity Acknowledgment賞の授賞および表彰が行われた。

【研究奨励賞】

『入院診療の質・安全保証に必要な医療リソース配分を決定するための「患者ー病床関係」適切性判断モデルの構築』

新田 純平氏 (東京大学 現・三菱UFJ信託銀行(株))

「品質」41, 1, pp. 107-120 (2011)

『与薬事故における危険予知トレーニングシートの作成方法の提案』

梶原 千里氏 (早稲田大学)

「品質」Vol. 41, 3, pp. 77-86 (2011)

【品質技術賞】

『設計品質管理のための設計プロセス計画と検証及び要求開発のための一手法に関する研究ー体系RDCモデルによる設計プロセスの可視化ー』

中沢 俊彦氏 (エルエムエス ジャパン(株))

「品質」Vol. 41, 2, pp. 81-93 (2011)

【2010年度 品質管理推進功労賞】 (氏名五十音順)

尾畑 義雄氏 関西電力(株)

三戸 辰雄氏 アイホン(株)

立林 和夫氏 元富士ゼロックス(株)

矢野 友三郎氏 経済産業省

【Activity Acknowledgment賞】 (氏名五十音順)

石井 成氏 名古屋工業大学

茨木 陽介氏 ITコーディネータ

梶原 千里氏 早稲田大学

加藤 省吾氏 東京大学

金子 雅明氏 青山学院大学

川村 大伸氏 東京理科大学

下中大 輔氏 日産自動車(株)

渡邊 克彦氏 トヨタ自動車(株)

第41年度役員体制決まる

会長	坂根 正弘	小松製作所
副会長	中條 武志	中央大学
〃	中西 清司	NECフィールディング
理事	荒井 秀明	小松製作所
〃	岡原 邦明	パナソニック
〃	兼子 毅	東京都市大学
〃	島貫 静雄	アイシン精機
〃	鈴木 和幸	電気通信大学
〃	鈴木 知道	東京理科大学
〃	田村 泰彦	構造化知識研究所
〃	中島 宣彦	日本科学技術連盟
〃	永田 靖	早稲田大学
〃	西 康晴	電気通信大学
〃	仁科 健	名古屋工業大学
〃	橋本 紀子	関西大学
〃	平岡 靖敏	日本規格協会
〃	藤木 覚	NECフィールディング
〃	山田 秀	筑波大学
〃	渡辺美智子	東洋大学
〃	渡辺 喜道	山梨大学
学会理事	井口 新一	日本適合性認定協会
〃	釜谷 佳男	日本規格協会
〃	鈴木 秀男	慶應義塾大学
〃	田中 健次	電気通信大学
〃	松浦 強	オリンパス
監事	村川 賢司	前田建設工業
〃	棟近 雅彦	早稲田大学
顧問	圓川 隆夫	東京工業大学
〃	大沼 邦彦	日立オートモティブシステムズ

第41年度役員役割分担表

論文誌編集	◎山田
学会誌編集	◎田村
事業	◎兼子
研究開発	◎永田
選挙管理	◎中條 ◎荒井
規定	◎平岡
会員サービス	◎渡辺 ◎松浦
庶務	◎荒井 ◎田中
会計	◎中島
広報	◎西
最優秀論文賞/研究奨励賞	◎中條 ◎山田
品質技術賞	◎中西 ◎田村
品質管理推進功労賞	◎坂根 ◎中西 ◎新井
国際標準	◎鈴木(知)
総合企画	◎中條
研究助成特別	◎仁科
ANQ支援特別	◎鈴木(知) ◎山田
QC相談室特別	◎橋本
JSQC選書特別	◎飯塚(悦)
原子力安全特別	◎中條
運輸安全特別	◎中條
TQE特別委員会	◎鈴木(和) ◎渡辺
公益法人法対応特別	◎鈴木(秀) ◎井口 ◎田中
中部支部	◎木下 島貫 仁科
関西支部	◎岡原 橋本
ソフトウェア部会	◎渡辺 ◎猪塚 ◎長坂
QMS有効性および審査研究部会	◎福丸 ◎平林
医療の質・安全部会	◎棟近 ◎水流 ◎永井(庸)

◎委員長、支部長、部会長 ○副委員長、副部会長